Prevalence and impact of past history of food allergy in atopic dermatitis

出典	Allergology International 2013 Mar;62(1):105-112. (http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/23267210)
著者	Kijima A　他
調査地域	大阪府
調査時期	2011 年
調査対象	大阪大学の新入生（18～41 歳）
依頼数	3414 人
回収率	98.6%
有効回答率	97.3%
診断方法	自己申告（医師の診断）
有症率	7%
調査概要	大阪大学の新入生を対象にアレルギー疾患の生涯有病率を調査した論文。食物アレルギー（FA）がアレルギーマーチ進展への最大のリスク因子であった。FA 以外のアレルギー疾患の寛解後の再燃は思春期に多かった。